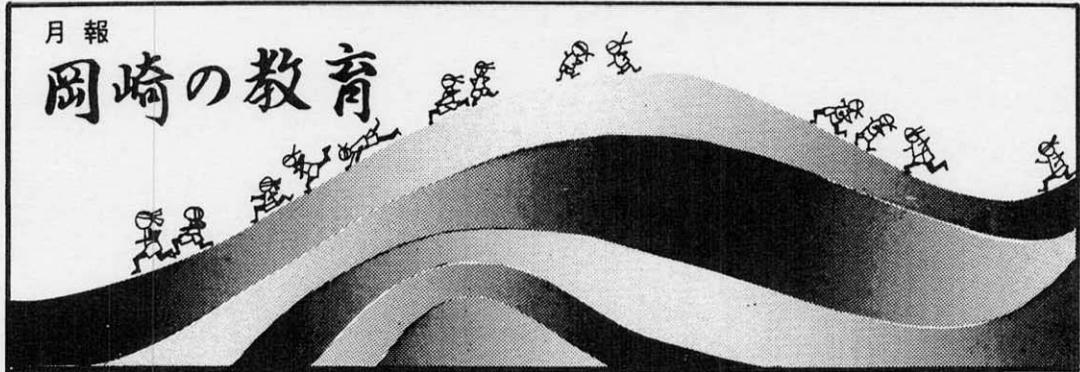


月報

岡崎の教育



7月号

「わあい、プール開きだ。」
元気な三島っ子の
歓声がこだまする。

赤、青、白の水泳帽が、
水しぶきを上げて
楽しそうに泳いでいる。

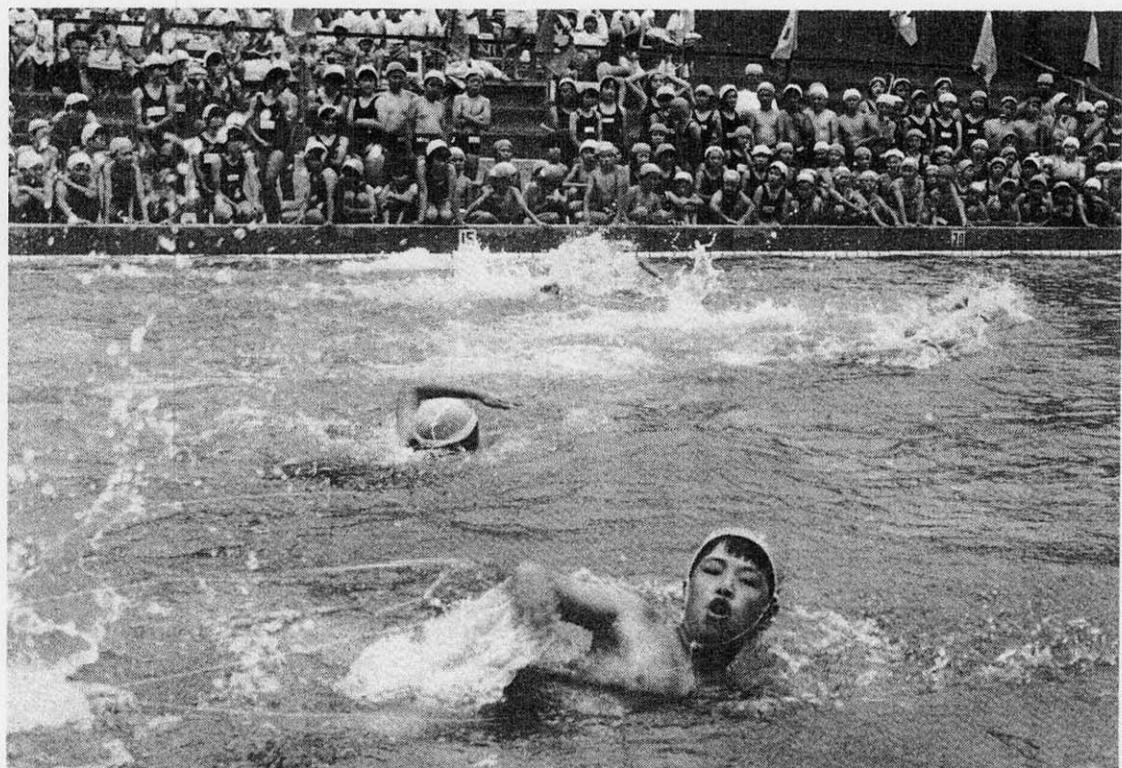
今年も
全校皆泳をめざして、
水泳が始まつた。

どの子も、どの子も、
進級の色幅めざして、
元氣いっぱい泳いでいる。

昭和60年7月1日

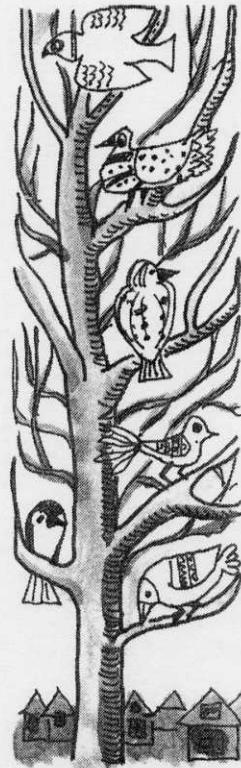
編集／発行

岡崎市教育委員会



(プール開き——三島小)

— 教育隨想 —



最近の非行相談

安藤 豊

子ともたちには三つの生活の分野がある。情緒安定の場としての家庭と、基礎的な知識、技術を習得する場としての学校と、緊張を処理する場としての地域社会などがあり、それぞれの分野で生活し、これらの分野が適切に機能し合うことで、初めて児童の健全な発達が期待できるのである。

ところが、近年、社会環境の急変は児童の生活の場を著しく変えつつあって、そのために健全な発達が阻害され、情緒的に不安定な非行児童が増えているのである。多くの児童が各分野において自立

心を涵養し成長しているにもかかわらず、どこかの分野で歯車からはみ出してしまって、児童も生まれており、大きな社会問題

が極めて困難であるため、一層その感が強い。とりわけ児童相談所に相談があつ

非行の内容も、中学生では、いじめ、集団リンチに始まり、喫煙、教師に対する

言える。

るものである。

(岡崎児童相談所所長)

交遊、更に進んで売春、麻薬にまで落ち込む心配もあるだろう。

これに対し、種々の相談、指導をしてゐるが、残念ながらその効果は期待に反するものが多い。それぞれの機関が個々に対処してもなかなか解決できないし、又、対症療法的手段では改善も困難であること、例えば、グループのリーダーを施設等に収容し、隔絶したところでその後に第二、第三のリーダーが現われてくるのであり、逆に非行集団を凝集化し、一層反発を招くことになってしまふ。結局「いたちごっこ」になつてしまふのである。

わたしの学校で行う研究授業は年間一人一回はありません。だから当たつ

庄幅小学校
太田政弘

甘言苦言



研究授業

・学校全体による日常的な問題、動機をふまえた研究でありたい。(研究授業を特別なもの、その場限りのものにしない。)

「取材にはかなり苦労しますね。記事だけではなく、写真も私がとるんですよ。書く者はみなそれぞれ仕事を持っている人ばかりで、さじを投げるわけにもいかないですよ。しかしこれを通じて、横のつながりが深まってきたことが、何よりも嬉しいことですよ。」

また広瀬さんは同人誌「文芸岡崎」の編集責任者でもある。創刊は昭和五十八年一月、これまで三号発刊された。

「私は十九才の時、胸を少し悪くして入院したんです。その頃から本を読むようになりますね。特にドストエフスキイに出会ってからは、自分で書くようになりますね。私が同人誌を最初に出したのは昭和三十二年の『三河文学』でした。」

広瀬さんの仕事部屋は本で埋まっている。その本の中に多くのカセットテープが目付いた。

「クラシックが好きでしてね。暇さえあれば聞いているんですよ。芸術といふのは音楽以外にはないんじゃないかと思うんです。音楽には言葉も内容も形式もない。倫理もな

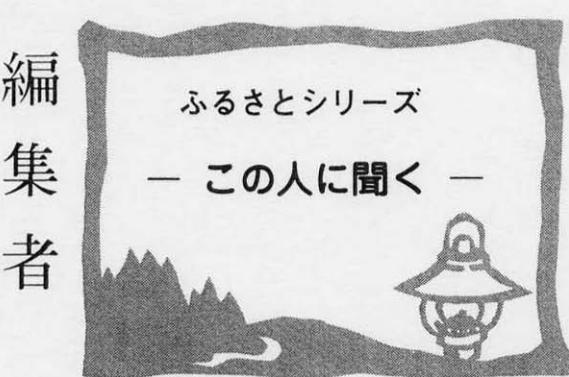
この五月、岡崎文化協会の機関誌「岡崎文化」七号が刊行された。広瀬さんは、編集責任者として創刊以来担当している。

「岡崎文化協会には、今、百五十九の団体が加盟しているんですよ。美術部会が三十四、芸能部会が八十、文化部会が四十五で、会員数は約一万名を越えているのでしようね。文化協会が再興されたのが昭和五十年十二月、その後は八十団体でした。創刊号から五号までは『藤華』といっていたんですけど、六号からは『岡崎文化』といたします。」

機関誌といつても、A5判二百三十六頁の中味をもち、迫力あるグラビア写真を幸福にするものだと

編集者

廣瀬 紀章氏



ふるさとシリーズ

—この人に聞く—

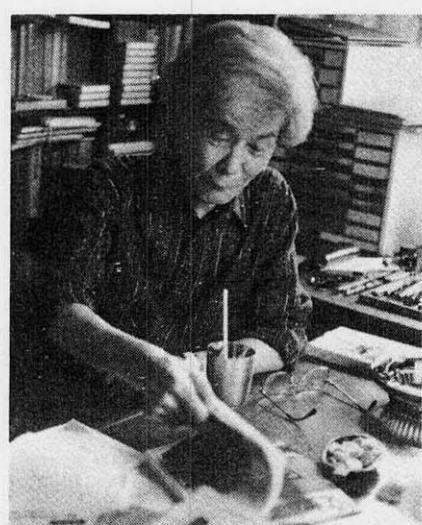
を丸出しにしないと通用しないと思つてゐるみたいなんですね。テレビなんかその最たるものですよ。芥川賞にしても思い切った体験をしないと取れないと思われているんぢゃないですか。」

広瀬さんは、「書くことは読むことである」と言われる。今一番欲しいのは、読む時間、書いてみたいことは、ドス

エフスキーについての考えをまとめてみることだそうだ。

最後に教師への注文をお尋ねしてみた。「先生方はものを書く時、どうしても、おれは教育者だという意識で書いてしまいますね。時には打ち破ることも必要ではないかな。それと、地域の文化の底辺を広げていくには、先生方の力が必要です。先生方も大いに参加して下さい。」

【生年月日】 大正九年十一月二十三日
【住 所】 梅園町三丁目七



個人差に応じた指導を

福岡小学校

深津 浩

臨時教育審議会で、「画主義」から「個性重視」への移行・改革が論議され、「教育の個性化」が強く主張され、個人に潜在する可能性の伸長をめざした個人差に応じた学習指導の重要性が問題になつてゐる。

このような背景の中での研究授業は、子どもに密着し、その子なりの「わかり方」を追究するとともに、どの教科のどのような場面で学力、能力などの個人差に応じた指導が可能か、どんな指導方法が必要であるかを具体的な目標のもとに研究することであると考える。

また、実際に研究授業を実施する場合は、事前研究・研究授業（本時）・事後研究とつなげて考えたい。即ち、事前研究に於ける確かな教材分析や一人ひとりの子どもの実態把握に立脚した個人目標の設定、研究授業に於ける授業記録・学習記録による眞の姿の分析、事後研究に於ける到達度達成評価・形成的評価などの分析による「わかり方」の考察等、一連の研究の中で、一人ひとりに合った学習指導法を確立したい。

し練つていく。反省会はその日に行う。・子ども一人ひとりをいかに伸ばすかにあり、毎日の授業を研究授業の心で大切にしていきたい。



夏期研修に取り組む先生方

夏休みの教師

講習会、三河教育研究会の各種研究集会、それに全国各地で開催される研究諸団体の研究会等、選択にいとまのない程の機会があるのである。

学校の意図で派遣される場合も含めて参加する限りは身銭を切ってでも参加するという位の使命感、自覚、意欲を持つべきで、それでなければ研修成果を自己にもたらすことは先ず不可能である。

国内旅行・海外旅行も夏休みでなければできない研修である。新婚旅行や慰安旅行は論外とするが、知識欲旺盛に、見聞を貪欲にして視野を拡大する旅行は、大いに推奨されてよいだろう。

昨今、教育の在り方が問われる時には必ず教師の力量が問題視される。教師の資質向上は緊急の要件となつてゐる。このような世論を教師として謙虚に受け入れ、期待に応える力量を養いたいものと思ふものである。

教師の資質向上は、与えられた研修をすらも自己研修の中に同化する程の研修意欲によって培われる。こうした自覺的自己研修は、教師本人の自己教育力の強弱に依拠するものである。この夏休みも又多忙ではあろうが、悔いのない期間にしたいと願つてゐる。

言うまでもなく夏休みは子どもにとつて授業のない日であるが、教師にとっての休業日ではない。そうはいつても、日常的に休みをとることのできない我々教師にとって、比較的幾日かの休みを得るのがこの夏休みであることを否定するものではない。

梅園小学校長

内田 松夫

教師の夏休みは一般の人が考えているような常識的な休みではない。まずは自己研修の機会としての休みと受け止めた。

自己研修とは自分のための研究と修養のことであるから、あくまでも主体的、個性的に行われるべきものと考えている。

そこで、夏休みという特殊条件を考え入れると、これほど主体的、個性的な研修が容易な時機は他にないと言うことができる。岡崎市現職教育委員会の実技



岩津小学校

岩瀬 米子

あと一ヶ月で児童の待ち望む夏休み。

教師が日頃の忙しさから解放される夏休み。私が三十数回経験した夏休みは、新任当時と比べると、大きく変遷しています。

私の子供のころ両親は教員でしたが、四十日間の夏休みは、全校出校日、日・宿直、講習以外は休みで、家族旅行に毎年行つた楽しい思い出が残っています。

戦時中は作業や空襲警報でできなかつた授業の補充のために、夏休みを返上し、一時間でも多くと授業をした辛い経験があります。

終戦後、夏休みが復活され、昭和二十一年教員の職名が訓導から教諭に変更さ

れたと同時に、資格取得のため必修の単位数を取る認定講習が始まり、早く単位がとりたくて必死に会場を探し求め市外へも出掛けました。認定講習がやや落ちついてきたころ、各教科の実技講習が始ままり、現在まで続いています。また、中学校では各球技大会の練習に汗する毎日で指導者は夏休みもなく大変でした。

昭和四十年八月、市教委から「八月十五日までは精力的に仕事をし、十六日以降は名実ともに静かな夏休みに入る」よう指導がありました。

最近「こんな忙しい夏休みならない方がいい。」という人もあるけれど、とんで

もないこと、特に若い先生方は日頃やらない自己研修の唯一の時です。

教材研究の追究に、海外へ見聞を広めるためのグループ旅行も是非行ってほしいと思います。研究論文の資料作りに、各種の講習会研修会への参加、趣味のサークル活動、体力づくりと短期間で十分とは言えませんが、個人個人の知恵袋を満杯にするために充実した夏休みの計画を立てたいと思います。若い先生方、チャレンスは二度と来ません。与えられたこの機会を大いに利用して充実した夏休みにして、新学期を自信をもって迎えたいものです。

意義ある夏休みに

岩津中学校 大野 清子

夏休みが近くなると、私は生徒にこう言う、「計画を立てて過ごしなさい。長い休みでなければできないようなことをしなさい。充実した意義ある夏休みにしましょう。」と。

ところが、教師としての自分の夏休みをどれだけ真剣に考えただろうか。生徒に言うことばをそのまま自分にあてはめねばならないことに今さらのように気づかされる。

今年こそは、この反省を生かして意義ある夏休みにしたいと思う。

○六月に購入したばかりで、まだ使用していないワープロを自在に使いこなせるようにしたい。

機器の扱いに弱いのが婦人教師だとよく言われる。汚名返上にがんばりたい。

○研修会や講習会に積極的に参加したい。広い物の見方・考え方方にふれて、自分の視野を広げたい。技術も身につけたい。

○読書をしたい。日々の忙しさにかまけて、本をじっくり読むということがない。歯ごたえのある本をこういう機会に読みたいと思う。

○授業の反省や工夫をするのにてたい。授業記録をまとめたい。

○科学万博等の研修旅行をしたい。

「百聞は一見に如かず」という。見聞を広め、心を豊かにしたい。

こうした計画を立てながら私は思った。教師の人間性や力量が、生徒に与える影響は大きい。とすれば、婦人教師が働く人間としての厳しさを自らに求めるとき、夏休みといえども教師としての日々を取り去ることはできない。

婦人教師が人間として教師として大きく成長するために、夏休みを受け身ではなく、意欲的、積極的に生きる生活であつてほしいと思う。自分を磨く日々であつてほしいと願つてゐる。それはまた私自身の反省もある。

一学期の自分自身の生活を振り返つてみると、時間がないという理由で、何よりも大切にしなければいけない教材研究を中途半端にしたまま授業にのぞんでしまつたことがあったように思う。また、生徒とのふれ合いも、思うようにとれなかつたようにも思う。そしてさらに、日々の生活に追われ、惰性に流されてしまふ。教師としての資質を高めたり、人間としての自分自身の器を大きくするため

チャレンジ精神

矢作北中学校

石井 洋

私たち青年教師の最大の武器は、「若さ」である。私は、少なくとも今までには、この特権を生かし、生徒に対し、仕事に対し、全力でぶつかつてきたつもりであった。

ところが、先日、市費による県外研修の説明会に出かけたところ、教育長先生より、

「度量の大きい先生のもとでは、度量の大きい生徒が育ち、生徒はのびのびと学習に打ち込める。」

確かに、自分では、自分なりに精一杯やってきたつもりであった。では、他人から見た場合、私は度量の大きな人間であったのか、生徒にとって、魅力のある良い教師であったのか、本当のところ、自信がない。

確かに、自分では、自分なりに精一杯やつてきました。では、他人から見た場合、私は度量の大きな人間であったのか、生徒にとって、魅力のある良い教師であったのか、本当のところ、とにかく、若きゆえの特権を生かし、チャレンジ精神を忘れず、高い目標をかげて、この夏を乗りきつていきたいと思う。

そこで、今年の夏休みこそ、まずは、一人の人間としての自分を磨こうと思う。時間はたっぷりとある。教師という枠にとらわれることなく、できる限り多くの研修会に参加し、他の人々との交流を図ることでいろいろな人々の考え方を学び、少しでも魅力のある人間になりたいと思う。自分自身を少しでも大きくすることである。今までとは別の角度から教材をとらえることができるだろうし、生徒に対する考え方、考え方方が変わるかもしれないと思う。



③八月十一日（日）
「家庭における健康管理」

○開講時間は、午前十時～十二時（受付九時三十分）

瀬木 慎一氏
美術評論家

⑥九月二十一日（日）
「出会いの不思議さ」

【中学校】

瀬則次、岡田耕一、六ツ美中
吉井内映雄、新香山中、深津

②八月四日（日）
「口ダンの『考える人』と
その影響」

俳人 楠本 審吉氏

⑤九月八日（日）
「生きものをデザインする」
基礎生物学研究所長
岡田 節人氏

①七月十四日（日）
「味のある話」
人楠本 審吉氏

④八月十八日（日）
「勝敗の岐れ道」
伝記作家
小島 直記氏

③八月四日（日）
「岡崎の『考える人』と
その影響」

作家 平岩 弓枝氏

◆期日と講師

本年度の岡崎市民大学は、俳人楠本 審吉氏、作家の平岩弓枝氏など、多彩な講師六氏が決定した。会場は昨年と同じ「せきらいホール」で、内容は次の通りである。

明日の岡崎を考える

第十二回 岡崎市民大学

会場は「せきらいホール」

日本体育大学教授

池田 敬子氏

◆多年勤続表彰の先生方

市内の小中学校に多年勤続（二十五年の教職員として七月一日の市制記念日に表彰を受ける

方々は次の通り。

【小学校】

▽城南小・伊豫田壽夫 ▽六ツ
美中部小・小久保良 ▽梅園小
之 ▽三島小・安丸銀次 ▽竜
美丘小・清水英子 ▽広幡小
清水弘、岩崎敏 ▽藤川小・村
上信良 ▽常東小・原田きぬゑ
▽奥殿小・加藤直男 ▽岩津小
▽岩月整 ▽大門小・酒井豊
▽矢北小・稻垣威敏 ▽北野小

○陸上競技

●印は大会新記録 ▲印は大会タイ記録

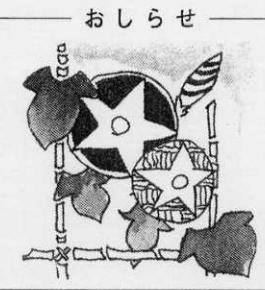
男 子	記録	氏 名	校名	女 子	記録	氏 名	校名
100m	11"8	石川 医伸	南	100m	13"2	中村由貴子	甲山
1年100m	12"9	純浦 好美	矢作	1年100m	13"8	安沢 真理	新齋山
200m	24"1	神谷 誠	矢作	200m	27"	岡田 恵子	葵
400m	55"6	石田 佳三	南	400m			
800m	2'10"9	杉山 直史	南	800m	●2'24"8	加藤 由香	城北
1・2年1500m	4'37"6	酒井 淳司	甲山	1・2年1500m			
3000m	9'53"9	大山 誠	常磐	3000m			
100m H	15"3	小幡 直也	甲山	100m H	16"3	柴田 綾子	美川
400m R				400m R	● 54"2	葵	中
800m R	●1'40"2	南	中	800m R			
低年400m R	● 50"4	美川 中	中	低年400m R	56"0	甲 山	
走 幅 跳	6.00m	神谷 誠	矢作	走 幅 跳	4.91m	増田 久枝	葵
走 高 跳	1.70m	脇田 明臣	矢作	走 高 跳	1.45m	新岡 里香	岩津
跳 丸 投	12.89m	長坂 昇和	東海	跳 丸 投	10.45m	小手 尚子	矢作

○柔道

学 年	氏 名	校 名	学 年	氏 名	校 名
3 年	鈴木 隆博	竜 海 中	2 年	松尾崎 史元	竜 海 中

○水泳競技

種 目	男 子	女 子
100m 自由形	浅井 幸季	城 北
200m 自由形	岩口 裕	新香山
100m 平泳	河合 徹	南
100m 背泳	木下 大介	矢 作
100m バタフライ	鈴木 小野沢宏昭	城 北
200m 個人メドレー	岩根 幸久	矢 北
400m メドレーリレー	矢 作	中 学 校
400m リレー	城 北	中 学 校



【寄贈刊行物・資料等】

◆水泳指導 鈴木勘三

A 6 一九八ページ

◆ダリマナ 84 太田一弘

B 4 一五八ページ

◆視聴覚教育 第16号

B 5 一〇三ページ

◆視聴覚ライブラリー

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かに豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現力を伸ばす

A 5 一五一ページ 矢 東 小

◆こだま 浅井千代子

B 6 二八九ページ

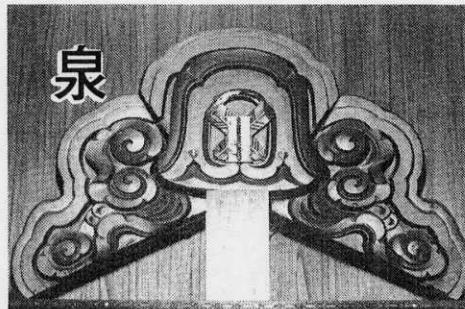
◆この一年 矢 北 小

◆あしたこそ 変形 A 4 一九六ページ

B 4 一五八ページ 矢 東 小

◆確かで豊かな表現

第二尋常小学校 の鬼瓦



岡崎市橋目町

矢作地区に、かつて第一から第六までの小学校があつたことを知る人は少ない。江戸末期に寺子屋の多かったこの地区には、明治初期にいくつかの義校が村々の寺にできた。それらの義校が統合されて六つの小学校になるのである。

矢作第二尋常小学校は、矢作北小学校の前身である。明治六年、森越村の長寿寺に創設され、森越義校と呼ばれた。近くでできた袖越義校と統合され長瀬学校に発展し、明治四十年に矢作第二尋常小学校と呼ばれるようになる。

明治四十二年の新校舎落成式

のパンフレットによれば、

- 学区の戸数 四八四戸
- 学区の人口 二九七一人
- 児童数 三四一人
- 校地の広さ 一四九八坪
- 教室の数 八教室

 等々と記述されている。

地元育ちの大人们には、まだ長瀬学区・第二尋常小学校の心意気が残つており、結束も固い。昭和六十年度は、児童数千七百六十五名の大規模校解消で、すぐ近くに北野小が新設・開校した。木造校舎は、新体育馆建設のため、六月一日に姿を消した。

「叱咤激励」——消滅しそうな言葉の一つである。心のほとばしり出る、力のこもった挨拶や朗読や指導を余り耳にしなくなつた。教師間、師師間でも同じこと。小さく細い声では、やさしさと甘さの温まりない。明るく、大きな声で一日を。

**シ
ス
オ
ア**

水車が二台、学校の中で回つている。料理屋でも行かなければ見ることのできなくなつた今、子供の頃見た、米搗き水車やガラ紡水車を想い出し、懐しむ人が多い。

周囲を緑豊かな山に囲まれた学校に似象づけている。

*教育よよみがえれ	若林 繁太
講談社	¥1100
*カンテラ日記	中島 博
筑摩書房	¥1200
*武士道 新渡戸稻造著	矢内原忠雄訳
岩波書店	¥300
*散り急ぐ花の哀しみは	渡辺みよ子
風媒社	¥1500

☆豊臣秀長 上・下 堀屋 太一
P H P 研究所 ¥1200
世に名将・名参謀といわれる人物は数多いが、名補佐役は極めて少ない。兄・秀吉を「天下人」にした秀長は、秀吉すらなし得ぬことをしたり、やりながらぬことをしたりした。秀吉が行うことにも協力した。しかし、それを自らの姿が目立たぬようになし遂げて満足している。生涯よき補佐役を務め抜いた秀長は、とかく自分勝手の横行する現代社会(教育界も含め)だからこそ、かえってかけがえのない存在に受けとられる。